NISSAY ASSET MANAGEMENT

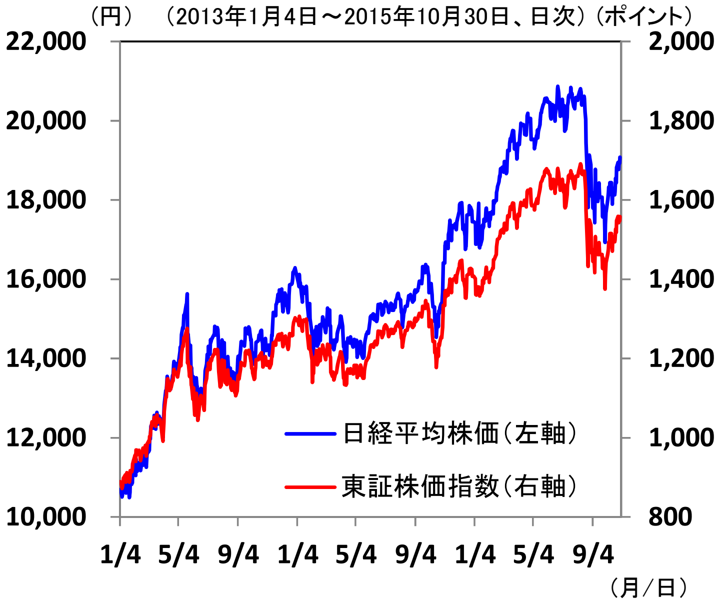
週間市場レポート
（2015年10月26日～30日）

（1）日本の株式・債券市場

株式市場の動き

■先週の日本株式市場（日経平均株価）は、週初、前週末の中国の追加金融緩和実施を好感し上昇で始まりました。その後は、日米の金融政策決定会合や国内主要企業の決算発表などから手控えられる中、米中間の緊張の高まりや企業業績への期待、米利上げ観測などから売買が交錯し、株価は一進一退の推移となりました。30日（金）は、日銀の追加緩和見送りで売りが先行したものの、政府の2015年度補正予算案の報道や円安が好感されて上昇に転じ、約2ヵ月ぶりに19,000円台を回復して引けました。　（週末引け値：19,083.10円）

■週間では、日経平均株価は1.37％の上昇、東証株価指数は0.67％の上昇でした。

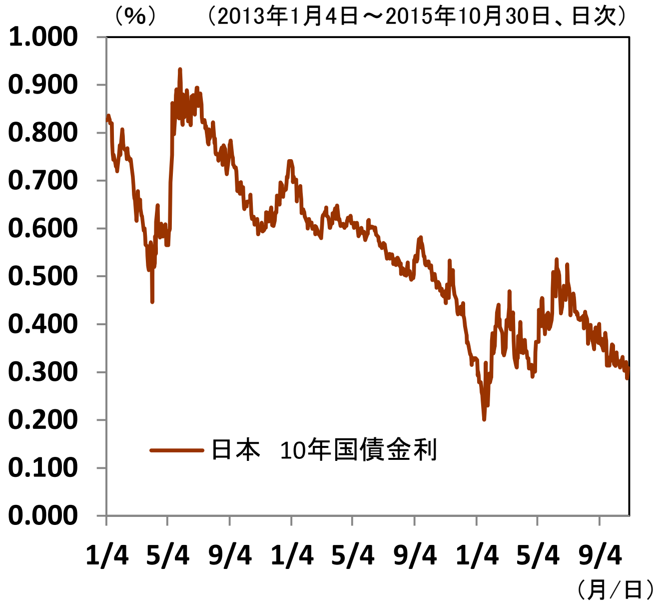


出所：ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

債券市場の動き

■先週の日本債券市場（10年国債金利）は、日米の金融決定会合を控えて様子見の中、週初は国内株高や円安から売られました。その後は、日銀の追加緩和策への思惑を背景に米債券高や需要の強さが意識されて上昇しました（金利低下、28日（水）引け値：0.287％）。30日（金）は、日銀の追加緩和策見送りを受けて売られる場面がありました。しかし、今後の追加緩和策実施への思惑も根強く、徐々に買いが優勢となって週の取引を終えました。　（週末引け値：0.309％）

■週間では、10年国債金利は0.006％の上昇でした。



出所：ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。 ●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

<審査確認番号H27-TB116>

ニッセイアセットマネジメント

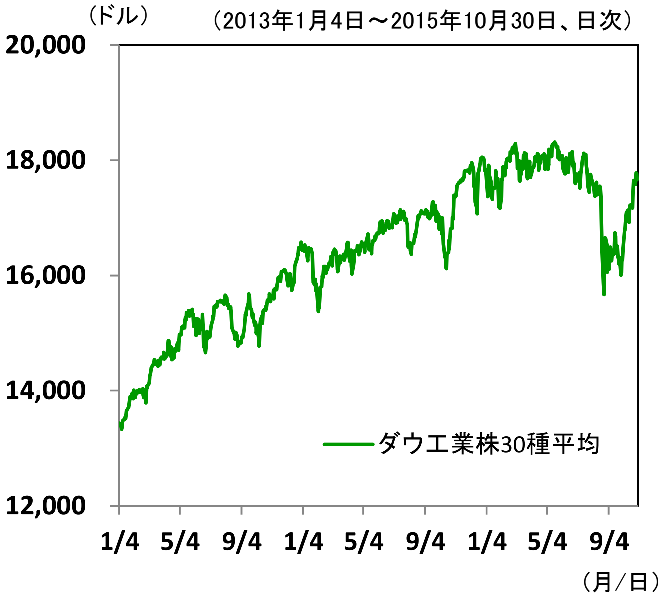
（2）米国の株式市場

市場の動き

■先週の米国株式市場（NYダウ）は、週半ばの米連邦公開市場委員会（FOMC）までは様子見の中、原油安や米景気・国内主要企業の業績への懸念からやや売りが優勢で推移しました。28日（水）は、FOMC声明が、年内利上げに含みを持たせる内容であったことから売りが優勢となりました。売り一巡後は、原油価格の反発や米主要企業の業績拡大への期待などから一転して上昇しました。しかし、週末にかけては上値を継続して買い上がる材料は乏しく、高値警戒感もあってやや売りに押されて軟調に推移しました。

（週末引け値：17,663.54ドル）

■週間ではNYダウは0.10%の上昇となりました。



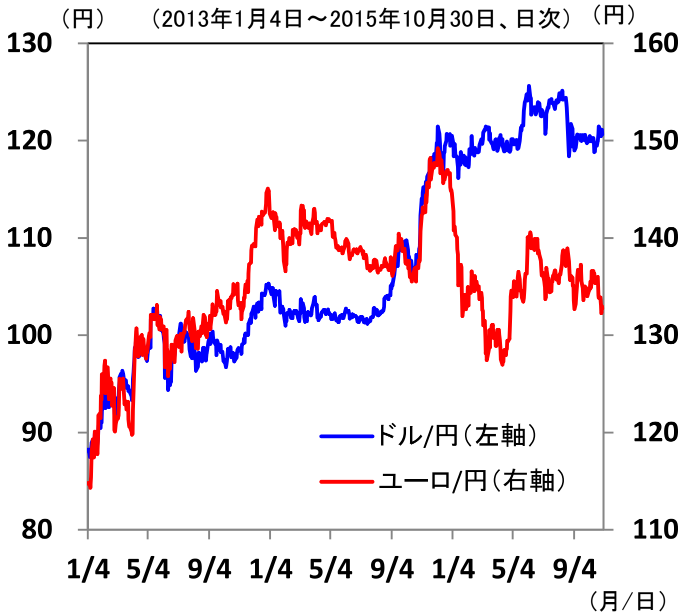
出所：ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

（3）外国為替市場

市場の動き

■先週のドル円相場は、FOMC前までは、低調な米経済指標や米株価の推移、米長期金利の低下などからドル売り円買い傾向となりました。また、年内利上げの見送り観測がドル売りを後押ししました。28日（水）には、FOMC声明が、年内利上げに含みを持たせる内容であったことから米長期金利が上昇、ドル買いが優勢となり円は一時121円台前半まで売られました。30日（金）には、日銀が金融政策の現状維持を決定し円買いが優勢となりましたが、今後の日米の金融政策への思惑もあって円の上値を買う動きは限られました。　　（週末引け値：120円55銭～65銭）

■週間では米ドル円は0.70%の円高、ユーロ円は0.81%の円高となりました。



出所：ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。 ●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。